



ありがとう 新井先生

昭和51年に当院に赴任してから35年の長きにわたり、当院一筋に病院の発展に貢献し、多くの患者さんを助けてきた新井 繁・副院長が、この3月をもって定年退職します。

一つの病院に35年勤務するのは、転勤が多い医師の世界では極めて異例ですが、これは新井医師が患者さんや病院のスタッフに深く愛されていたことを物語っています。

結構スタッフにきつい注意もしますが、決して厭味がなく、叱られた方もいつも大きな愛を感じます。病棟は人まかせで普段はあまり訪れませんが、いざ異常が発生するとすぐ駆けつけ助けてくれます。まさに「困った時の新井」です。

前置胎盤で子宮筋腫もある難しい帝王切開で、どうやって胎児を娩出しようか迷っていると、助手の新井医師の手がすっと伸びてきて、あっという間に子宮を切開し胎盤をよけて鮮やかに胎児を取り出しました。まるで機動隊が立てこもりに強行突入し、犯人を逮捕するような電光石火でした。このように、新井医師の匠の技、魔法のような手指の動きは、県内の専門家筋でも有名です。湯沢、吉谷、長谷川など大学で講師まで務めてから当院に赴任した医師でも、新井医師から手術をたくさん学んだといえます。

高い教養を持ち諸事に明るい新井医師。患者さんやスタッフに医療以外のこともよく教えてくれました。その教え方がとてもほほえましいと好評でした。本当に長い間患者さんやスタッフを導いてくださり、ありがとうございました。

なお、この4月からは西区小針3丁目の新潟医療センター(旧:新潟こばり病院)に移って引き続き診療を行います。



3月7日に行われた送別会で渡辺寿子師長より花束を受ける

《臍帯抄》 ▼人生指南の多数の著書で有名な中谷彰宏氏の名言の1つに、「人間は二通りしかない。成功者と失敗者ではない。成功も失敗もする人と、成功も失敗もしない人である」というのがあります。失敗しない生き方を選べば成功もしないと、中谷氏は前者を是とします。▼体外受精などの不妊治療は、成功するとそれこそガッツポーズをして患者さんと喜び合いますが、不成功ですと申し訳なくて心底へこみます。まさに成功も失敗もある人生のようです。結果が明快な分、冷酷でもあります。道を切り拓くには、日々の研鑽しかありません。▼また野球のイチロー選手の言葉に「ヒット一本がどれだけ嬉しいか」があります。あれだけ打っている選手でも次の1本のヒットは格別なのです。長年体外受精をやっても1つの妊娠は天にも昇るくらい嬉しいものです。体外受精の打率もイチロー選手を超えるのが目標です。

生殖医療認定研修施設に

日本生殖医学会では、不妊治療など生殖医学の分野において十分な技量をもつ医師を「生殖医療専門医」として認定しています。専門医になるには不妊治療の専門施設でトレーニングを積むことが必須で、それにふさわしい施設を学会がこのほど認定しました。全国で 88 施設で、新潟県では新潟大学病院と当院の2施設が選ばれました。

認定研修施設となる条件は、①すでに専門医である医師が常勤している、②日本産科婦人科学会の体外受精、顕微授精の登録施設で、毎年成績を報告している、③年間 100 件以上の採卵数がある、などです。

人間が子どもを産みこれを育てることを生き甲斐とするように、医師(特に病院勤務医)にとっても、若い医師を育てることは大きな喜びです。指導するには自分も研鑽を積みねばなりませんし、また意欲に満ちた若い医師から逆に学ぶことも多く、診療のレベルアップがはかれます。

この1年間で、44 才の方(写真下)を筆頭に、142 例の妊娠を得ることができました(下表)。しかし、ご期待に添えなかった患者さんもまだまだ大勢いらっしゃいます。今回の認定を機にスタッフ一同さらに技術の向上に励み、皆さんとたくさんの喜びを分かち合いたいと思っています。



| 最近1年間の妊娠成績 | |
|------------|----------------|
| 人工授精 | 13.4% (34/254) |
| 体外受精 | 31.3% (30/96) |
| 顕微授精 | 30.3% (10/33) |
| 凍結胚移植 | 44.4% (16/36) |
| 排卵誘発妊娠 | 21、自然妊娠 31 |

胚培養士・吉田奈央の培養室日記

胚培養士をご存知ですか？ 胚培養士と聞いて、どのような職業かイメージできる人はどれくらいいるでしょうか。すぐに不妊治療の仕事(主に人工授精や体外受精)だとわかる方はごくわずかではないでしょうか。最近では、テレビや雑誌などで様々な不妊治療に関する特集が取り上げられることが増えてきたので、以前よりは胚培養士という言葉を目にする機会は増えたと思います。しかし、まだまだ胚培養士の認知度は低いと思います。

私も大学に入学し、生殖学を勉強するまでは全く聞いたこともありませんでした。大学の講義で、医師でもなく看護師でもないけれど、病院で働き、不妊治療に携わることができるということを知り、とても興味を持ったと同時に魅力を感じました。具体的な将来の夢や、目標など考えていなかった私でしたが、「胚培養士になりたい!!」と強く思い、講義の後すぐに教授のところへ相談にいきました。教授に様々な学会や現在の胚培養士の現状などを聞き、胚培養士になることを決意しました。

大学での研究も、動物の卵子や精子を扱い、実際に体外受精なども行っていました。研究を通して、基礎知識を少しずつ身につけることができました。自分の勉強したことが職業として活かせること、さらに患者さんに喜んでもらえる胚培養士はやり甲斐のある仕事だと思います。日々勉強をし、さらに知識と技術を身につけ、胸をはって『胚培養士』と言えるようになりたいです。不妊外来では具体的なご説明などをさせていただいています。どうぞよろしくお願いいたします。

